

■10月2日（金） <戦略と技術が拓く近未来>

「ラストマンの生き方」◎講演 60 分、質疑応答 60 分の構成です。

川村 隆 (かわむら たかし) 株式会社日立製作所 相談役

1939 年、北海道生まれ。東京大学工学部電気工学科卒業後、日立製作所入社。2015 年 3 月期決算で過去最高の営業利益をたたき出した日立製作所。だが、これまでずっと順風満帆だったわけではない。川村氏は、日立製作所が 7873 億円の最終赤字を出した直後の 2009 年、執行役会長兼社長に就任。テレビなどの赤字事業からの撤退といった大ナタを振るいながら、「社会イノベーション事業」の拡大という具体的な方向性を示し、日立再生を陣頭指揮した。最終的な責任を自分で取る覚悟を持って、物事をやり切るのが「ラストマン」。今年春に出版した書籍も話題に。



■10月14日（水） <気鋭の論客に聞く>

「禅とハードル」

為末 大 (ためすえ だい)

1978 年広島県生まれ。陸上トラック種目の世界大会で日本人として初のメダル獲得者。シドニー、アテネ、北京と 3 度のオリンピックに出場し、2012 年、25 年間の現役生活から引退。現在は、一般社団法人アスリート・ソサエティ、為末大学、Xiborg などを通じ、スポーツ、社会、教育、研究に関する活動を幅広く行っている。2013 年には禅僧・南直哉師との対談本『禅とハードル』を刊行。為末氏が南氏のほとんどの著書を読んでいたことがきっかけに、青森県・恐山で 10 時間もの対談が実現した。夕学五十講二度目の登壇では、引退後のご経験を踏まえてのお話を聴く。



■10月16日（金） <信頼と共感の経営>

「消費者行動とブランド・マネジメント」

坂下 玄哲 (さかした もとたか) 慶應義塾大学大学院 経営管理研究科 准教授

1999 年神戸大学経営学部卒業、2001 年同大学大学院経営学研究科博士前期課程修了（修士／商学）、2004 年同後期課程修了（博士／商学）。上智大学経済学部経営学科専任講師を経て、2007 年より慶應義塾大学大学院経営管理研究科准教授となる。2013 年ノースウエスタン大学ケロッグ経営大学院客員准教授。複雑化する経営環境において、企業が安定的に成長するために欠かせない「強いブランド」の構築と管理をするためにはどのようにすればいいのか、専門家の坂下先生に学ぶ。



■10月21日（水） <気鋭の論客に聞く>

「経済学的思考法」

大竹 文雄 (おおたけ ふみお) 大阪大学 社会経済研究所 教授

1961 年京都府生まれ。京都大学経済学部卒。大阪大学大学院経済学研究科博士前期課程修了。

大阪大学博士（経済学）。2001 年 5 月より現職。専門は労働経済学、行動経済学。日本の所得格差の実態や原因を計量分析で実証的に迫った『日本の不平等』（日本経済新聞社、2005 年）が日経・経済図書文化賞、サントリー学芸賞、エコノミスト賞を受賞。2008 年には日本学士院賞を受賞。また、最近では NHK「オイコノミア」への出演や日本科学未来館の企画展「波瀾万丈！おかね道」の総合監修などと、幅広く活躍。



■10月30日（金） <信頼と共感の経営>

「チームの力を活かす組織論～良い組織作りのための実践的視座～」

西條 剛央（さいじょう たけお）早稲田大学 大学院商学研究科 MBA コース 客員准教授
 1974年宮城県仙台市生まれ。早稲田大学人間科学部卒業、早稲田大学大学院人間科学研究科で博士号（人間科学）取得。日本学術振興会特別研究員（DC/PD）を経て、2009年より早稲田大学大学院商学研究科ビジネス専攻専任講師、2014年より現職。心理学と哲学を専門とし「構造構成主義」という独自理論を創唱。この理論を用いて東日本大震災の支援を開始。「ふんばろう東日本支援プロジェクト」代表も務め、物資支援から重機免許取得といった自立支援まで50以上のプロジェクトからなる日本最大の総合支援組織に育てあげた。2014年、世界的なデジタルメディアのコンペティションである「Prix Ars Electronica」のコミュニティ部門において、最優秀賞にあたるゴールデン・ニカを日本人として初受賞。ベストチームオブザイヤー2014受賞。



■11月2日（月） <信頼と共感の経営>

「有言実行」

清宮 克幸（きよみや かつゆき）ラグビートップリーグ・ヤマハ発動機ジュビロ 監督
 1967年、大阪府生まれ。大阪府立茨田高校でラグビーを始め、3年時に花園の全国大会に出場し、高校日本代表にも選出される。早稲田大学では、1年からレギュラーになり、2年時に日本選手権優勝。4年時には主将として大学選手権優勝に貢献。サントリー（株）入社とともに、サントリーラグビー部に入部、1992～94年には主将を務めるなど中心選手として活躍。2001年に現役を引退し、早稲田大学ラグビー蹴球部監督に就任。就任後5年連続で関東大学対抗戦全勝優勝、大学選手権も3度制覇し、早稲田ラグビー復活の原動力となる。その後、サントリーラグビー部へ監督として復帰し、サントリーを初のトップリーグチャンピオンへと導く。現在監督を務める、ヤマハ発動機ジュビロでは、リーマンショックにより廃部宣告されていたにもかかわらず、5年で日本一とした。今夏、甲子園で活躍した早実、清宮幸太郎選手の実父。



■11月10日（火） <気鋭の論客に聞く>

「習近平の中国」

宮本 雄二（みやもと ゆうじ）宮本アジア研究所 代表、元駐中国特命全権大使
 1946年福岡県生まれ。京都大学法学部卒業後、外務省入省。以降3度にわたるアジア局中国課に籍を置くとともに、北京の在中華人民共和国日本国大使館駐在は3回を数える。中国課長、ミャンマー大使、沖縄担当大使などを歴任。2006年から2010年まで中国大使。退官後は、宮本アジア研究所代表、日中友好会館副会長、日本日中関係学会会長を務め、『これから、中国とどう付き合うか』『習近平の中国』などの執筆活動も。「習近平を最もよく知る外交官」と言われる。



■11月11日（水） <戦略と技術が拓く近未来>

「アシックスのグローバル戦略」

尾山 基 (おやま もと) 株式会社アシックス 代表取締役社長 CEO

1951年石川県生まれ。大阪市立大学商学部卒業後、日商岩井(現双日)でナイキ・ジャパンの立ち上げに携わった後、アシックスに入社。マーケティング統括部長、アシックスヨーロッパB.V.代表取締役社長などを歴任し、2008年代表取締役社長に就任。2011年から現職。技術力でオリンピックでの数々の金メダリストを支えてきた日本のスポーツメーカーであるだけでなく、2000年からの15年間で海外売上高比率が約2倍となり、現在は70%以上に達するなど、急速にグローバル化が進んでいるアシックス。ヨーロッパ駐在時代のご経験も交えながらのお話に期待。



■11月18日（水） <見えない世界に挑む>

「ウイルスはどうやって生き残っているのか」

高田 礼人 (たかだ あやと) 北海道大学 人獣共通感染症リサーチセンター 教授

1968年東京都生まれ。北海道大学獣医学部卒業。同大獣医学研究科博士課程修了(獣医学)。同大獣医学研究科助手、東京大学医科学研究所助手を経て、2005年より現職。2007年よりザンビア大学獣医学部客員教授、09年より米NIHロッキーマウンテン研究所の客員研究員に。専門は獣医学、ウイルス学。専門はインフルエンザウイルスやエボラ出血熱等の動物を介して人に感染するウイルスの研究を行い、感染経路の解明から治療薬の開発までの実績を残している。特にエボラウイルスにおいては、先行研究もほとんどない中、世界で初めてエボラウイルスの感染メカニズムを解明した世界的第一人者である。



■11月26日（木） <気鋭の論客に聞く>

「組織人材から”社会人材”へ」

野田 稔 (のだ みのる) 一般社団法人 社会人材学舎 塾長・明治大学大学院 グローバル・ビジネス研究科 教授

1957年生まれ。一橋大学大学院商学研究科修士課程修了。野村総合研究所経営コンサルティング一部部長、(株)リクルート新規事業担当フェロー、多摩大学経営情報学部教授を経て現職。組織・人事領域を中心に、ベンチャー立ち上げ支援を含め、幅広いテーマで実践的なコンサルティング活動を行う。2013年9月、日本の人材教育レベルを高め、ビジネスパーソン能力発揮を支援する(一社)社会人材学舎を設立し、2015年6月塾長に就任。また、NHK「経済ワイドビジョンe」(2009年4月-2010年3月)、同「Bizスポワイド」(2010年4月-2011年3月)NHK Eテレ「仕事学のすすめ」(2011年4月-2013年3月)、などメディアでも活躍。



■12月3日（木） <文化と歴史で世界を読み解く>

「戦後70年、『学生と戦争』を考える」 ◎対談形式で行います。

・都倉 武之 (とくら たけゆき) 慶應義塾福澤研究センター 准教授

・特攻を経験された方を含む元学徒兵の方々

1979年生まれ。慶應義塾大学法学部政治学科卒業。同大学大学院法学研究科政治学専攻修士課程修了。武蔵野学院大学国際コミュニケーション学部助手、同大学国際コミュニケーション学部専任講師、慶應義塾福澤研究センター専任講師を経て、2011年10月より現職。専攻は近代日本政治史・政治思想史、メディア史。2013年8月より「慶應義塾と戦争」アーカイブ・プロジェクトを担当。「今後、戦争のことを具体的に検証するためには今、史料を集めておかないと、何もわからなくなる。」という危機感から、学徒出陣などの基礎資料を収集、データを整備し、展覧会やインターネットで積極的に公開する活動をしている。



■12月15日（火） <見えない世界に挑む>

「自分も世界も幸せにする生き方」

榎本 英剛 (えのもと ひでたけ) よく生きる研究所 代表

兵庫県宝塚市生まれ。一橋大学法学部を卒業後、(株)リクルートに入社。人事・営業・企画・研修開発などの業務を経験し、同社を退職後、米国サンフランシスコにある CIIS (California Institute of Integral Studies) に留学。組織開発・変容学を専攻、修士号を取得。留学中、コアアクティブ・コーチングに出会い、日本人として初めて CPCC (Certified Professional Co-Active Coach) の資格を取得。帰国後、CTI ジャパンを設立し、本格的にコーチングを日本に普及する活動に取り組む。2003 年末に同社の代表を退き、英国北部スコットランドに家族とともに移住。帰国後は、英国在住中に出会ったトランジション・タウンおよびチェンジ・ザ・ドリームという2つの世界的な市民運動を日本に広げべく、それぞれトランジション・ジャパン、セブン・ジェネレーションズという2つの NPO 法人を設立。2012年には、これまでの活動を統合すべく、よく生きる研究所を設立し、現在に至る。



■12月17日（木） <文化と歴史で世界を読み解く>

「幸せの日本論—日本の個人と企業はいかにあるべきか」

前野 隆司 (まえの たかし) 慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 教授

1962 年山口市生まれ。東京工業大学工学部機械工学科卒業。同大学理工学研究科機械工学専攻修士課程修了後、キヤノン (株) 入社。慶應義塾大学理工学部専任講師、同助教授、同教授を経て、2008 年より現職。この間、1990 年-1992 年カリフォルニア大学バークレー校 Visiting Industrial Fellow、2001 年ハーバード大学 Visiting Professor。ロボットに人間と同等の機能をもたせるよう、プログラミングする人工知能について研究を進める途上で、意識に関する仮説「受動意識仮説」を見出した前野先生は、教授を務める SDM (慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント) を、現代世界が直面する環境・安全・健康・平和・幸福等に関わる複雑な問題をシステムとして解決し、より良い世界を築く、文理融合の大学院と定義し、ヒューマンインタフェースのデザインから、ロボットのデザイン、教育のデザイン、地域社会のデザイン、ビジネスのデザイン、価値のデザイン、幸福な人生のデザインまで、様々なシステムデザイン・マネジメント研究を行なっている。



■1月14日（木） <日本のソフトパワー>

「落語のちから」 ◎落語一席を交えた 90 分と質疑応答 30 分の構成です。

春風亭 一之輔 (しゅんぶうてい いちのすけ) 落語家

1978 年千葉県野田市に生まれる。埼玉県春日部高校在学中、自ら「落語研究会」を起こし部長として活躍し、進学した日本大学芸術学部でも「落研」に所属。卒業後、春風亭一朝に入門。若手噺家としては秀逸な芸で人気が高まり、2012 年 3 月、異例の 21 人抜きで真打に昇進。得意ネタは「不動坊」「茶の湯」「鈴ヶ森」「初天神」など。JFN ラジオのトーク番組『SUNDAY FLICKERS』でメインパーソナリティも務めている。



写真: キッチンミノル

■1月26日（火） <戦略と技術が拓く近未来>

「高収益事業の創り方」

三品 和広 (みしな かずひろ) 神戸大学大学院 経営学研究科 教授

一橋大学商学部卒業。同大学大学院商学研究科修士課程修了。ハーバード大学文理大学院博士課程修了。ハーバード大学ビジネススクール助教授、北陸先端科学技術大学院大学先端科学技術調査センター助教授、同大学知識科学研究科助教授、神戸大学大学院経営学研究科助教授を経て、2004 年より現職。事業の長期収益を決める主因は何なのか。これをテーマに研究を進める。2015 年 7 月刊行の『経営戦略の実戦 1 : 高収益事業の創り方』では、東名阪一部上場企業と東証二部上場企業を合わせた 1805 社を対象に調査をした。週刊東洋経済の巻頭コラム「経済を見る眼」の執筆陣にも加わっている。

